

SOLUTION CASE NTTコミュニケーションズ様

先端の仮想化技術を活用し、 安価かつセキュアな環境での利用を実現 クラウドサービスの最先端に行く 「Bizホスティング ベーシック」

NTTコミュニケーションズ株式会社様(以下、NTT Com)は、本格的なクラウド時代の到来に際し、新たなサービス基盤を構築すべく、クラウド型仮想ホスティングサービス「Bizホスティング ベーシック」(以下「BHB」)を開発し、2010年4月から提供しています。国内外の競争サービスがひしめくクラウド市場で、「BHB」はどのような優位性を発揮しているのでしょうか。そして、その開発にNTTソフトウェアはどのように貢献できたのでしょうか。NTT Comの開発・サービス企画のご担当者に伺いました。

PHASE 1 開発へのアプローチ

ネットワーク基盤に強みを持つNTT Comが 新たなクラウド基盤サービスの構築へ

「BHB」は、仮想化技術を活用したクラウド型ホスティングサービスです。NTT Comのデータセンターに設置されたサーバーリソースをネットワーク経由で利用することで、高品質かつ安価なサービス提供を実現しています。これまで法人向けのデータセンター／ホスティングサービスを安定的に運用してきたNTT Comですが、クラウド市場が世界的に活発化する中、新たなクラウド基盤サービスの開発を目指すことになりました。「BHB」サービス企画の上野氏は、その背景を次のように説明します。「東日本大震災以降、BCP(事業継続計画)、DR(災害復旧)といったキーワードが特に注目されていることからわかるように、持続的な発展に向け、企業が解決すべき経営課題は、今、山積しています。コスト削減、アウトソーシングの活用による運用負荷の低減を迫られる中、必要なときに必要なだけ利用できるクラウドコンピューティングへの期待が高まってきています。そのような状況を鑑み、仮想サーバーを迅速に提供し、さらに弊社が提供するArcstar Universal Oneなどのセキュアなネットワークサービスと一体で提供するクラウド基盤サービスの開発に着手しました。それが「BHB」なのです」(クラウドサービス部 ホスティング&プラットフォームサービス部門 上野裕史氏)

日本No.1のユーザー数を誇るサービスプロバイダ「OCN」の運用実績からもわかるように、NTT Comの優位性の一つはネットワークにあります。「BHB」はVPNと直結したネットワーク一体提供を図り、セキュアなクラウド環境を目指しました。また、NTT Comは豊富なホスティング運用実績があり、そのノウハウによってユーザー個々の、サーバーの運用や保守、管理といった負荷を低減できます。このように、クラウドサービスをワンストップで提供できる運用力がNTT Comにはあるのです。

「決して途切れない、品質の高いネットワークを常に提供していくこと、それは当然おさえておくべきもの。キャリアであるNTTグループの一員として非常に厳しい品質管理のマインドが私たちのDNA

にはあります。さらに、構築・接続、運用保守、セキュリティを個別にクラウド基盤に積み上げるのではなくトータルマネジメントすることが可能です。このような背景を踏まえ、私たちは「BHB」の開発に臨みました」(上野氏)

PHASE 2 ソリューションの開発

最先端の仮想化技術「KVM」を採用し、 商用サービスに向けてNTTソフトウェアと協業

「BHB」開発プロジェクトでは、ベータテスト、無償トライアルサービスというステップを踏み、同時進行で商用サービスの開発が進められました。2009年10月～2010年3月まで、半年に渡ったトライアルでは、「BHB」の需要の検証、着目される機能の洗い出しが行われました。NTTソフトウェアは、このトライアルから参画し、開発の一端を担っていくことになります。

「NTTソフトウェアには、システムが制御する装置の調査から携わっていただきました。行き届いたリサーチのおかげで、トライアルはスピーディーかつスムーズに進められています。このリサーチは、商用サービス版のプログラム開発に際し、制御できる機能の把握にも役立ちました」(クラウドサービス部 ホスティング&プラットフォームサービス部門 主査 得能聡氏)

商用プログラムの開発にあたっては、コアとなる仮想化技術の選定が重要なポイントになります。NTT Comは、Linuxの標準技術として組み込まれており、安定したパフォーマンスが見込める「KVM(Kernel-based Virtual Machine)*」を選定しました。しかし、KVMは商用サービスへの採用例が世界でも数例しかありません。さらに、商用サービス開始までの開発期間は3か月という短期間でした。NTTソフトウェアを開発パートナーに選定したのは、先端的な技術に踏み込んでいく姿勢がポイントだった、と開発担当者たちは語ります。

「極めて短期間での開発でしたが、スムーズに進められたのは、NTTソフトウェアとの密な連携があつてこそ。同社は仮想化・分散処理技術に関する知見があり、多くの開発実績がありました」(得能氏)「複数のベンダーが候補に挙がる中、パートナーを決めたのは、NTTソフトウェアの未知の技術に積極的に取り組むマインドに着

目したのです。私たちにとっても初めての採用になる「KVM」ですが、NTTソフトウェアは負荷の検証からシステムの構築まで、検証、調査を非常にきめ細かく進めていただきました」(クラウドサービス部 ホスティング&プラットフォームサービス部門 田中寿一氏)

トライアルで得たノウハウを分析し、商用サービスの開発ベースに乗せるプロセスを経て、2010年4月30日、無事に商用サービスの提供がスタートしました。

*KVM:Kernel-Based Virtual Machine

Linux上で仮想化環境を利用するためのソフトウェア。Linuxカーネルに仮想マシンモニタ(VMM:VirtualMachineMonitor)をインストールし、仮想的なコンピュータ上で複数のOSを並列に動作できる。

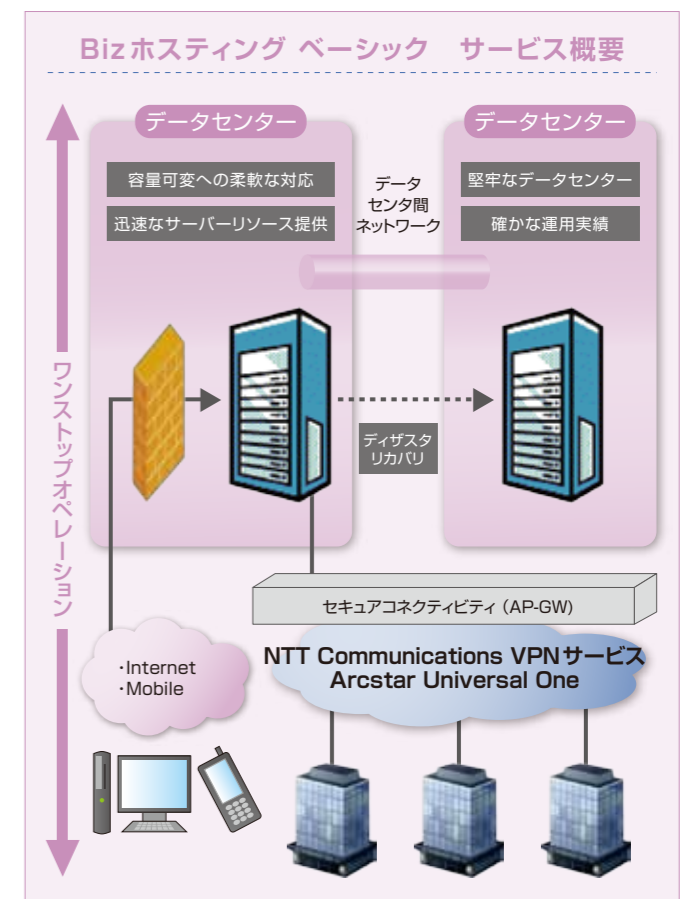
PHASE 3 導入成果と今後の展望

クラウドの新たなステージに向け、 「信頼」「安全」と共に多彩なサービスを届ける

サービス開始から1年が経ち、ユーザー数も順調に増加しています。これまで海外のクラウドサービスを利用していたユーザーが「BHB」を選択するケースも目立ってきました。サポート体制の充実、国内にデータセンターを持つ安全性といった「国産クラウド」のメリットは、そのままNTT Comが持つ優位性に直結しています。仮想マシン単位での安価な提供、リソースの拡張やスペック変更がオンデマンドで柔軟に行える点も、「BHB」への高い評価につながりました。

「海外キャリアよりも安価で、国内データセンターの利用により回線は低遅延です。さらに、サービス単独ではなくネットワークも含めたシームレスな運用など、安心のサポート体制を24時間365日ご用意することができます。また、最近では、企業が利用するクラウドサービスとしてだけでなく、企業が提供するクラウドサービスの基盤、部材としてご利用いただくケースも非常に増えてきました」(上野氏)

NTTソフトウェアが開発協力したコントロールパネル(仮想サーバーの制御管理機能)では改善、新機能追加も活発に行われており、サーバーの運用・管理負荷の低減をアシストしています。「サーバーの容量がいっぱいになっても、コントロールパネルからいつでも簡単に増設できるなど、管理・運用のためのユーザーインターフェースは今なお改善を進めています。NTTソフトウェアとは常にコミュニケーションを取って開発を進めており、迅速かつ確実な機能追加ができています」(田中氏)



「高品質で安定した『BHB』を拡充していく上では、信頼できる開発パートナーが欠かせません」と口をそろえるご担当者から、これからのサービス展開とNTTソフトウェアとの今後について語っていただきました。

「『BHB』以外にも、構成や運用を自在にカスタマイズいただける『Bizホスティング エンタープライズ』、海外の拠点を一括で管理できる『Bizホスティング グローバル』があります。さらに『BizCITY』というブランドで安心・安全なネットワーク基盤を生かしたクラウドサービスを提供して参ります。その先陣に立つ『BHB』が企業の経営課題の解決を支援していく上では、NTTソフトウェアの熟練の技術力は欠かせないものになるでしょう。これから一緒にビジネスを作っていくパートナーとして歩んでいきたいと考えています」(得能氏)

エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社 <http://www.ntt.com/>

設立	1999年7月1日
事業概要	NTTグループ内で国内長距離・国際通信、法人営業、上位レイヤサービスを担う。個人向けには会員数800万人という日本最大規模のインターネットプロバイダ「OCN」を運営するほか、IP電話、映像・音楽等各種コンテンツ配信などのサービスを提供している。法人向けには、企業へのソリューションの提供、国内外のIPネットワーク／データ通信サービス、データセンター／コロケーション／ホスティングサービスを展開している。
資本金	2117億円
従業員数	8150名(2011年3月末現在)



(写真左) クラウドサービス部 ホスティング&プラットフォームサービス部門

上野 裕史氏

(写真中央) 主査

得能 聡氏

(写真右)

田中 寿一氏